

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」
海外インターンシップ・プログラム構築のための事前調査
報告書

平成 25 年 6 月

学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築
代表校：金沢大学， 連携コンソーシアム：(一社)大学コンソーシアム石川

海外インターンシップ・プログラム構築のための事前調査報告書

平成25年6月

学都いしかわ・課題解決型グローバル人材育成システムの構築

代表校：金沢大学，連携コンソーシアム：(一社)大学コンソーシアム石川

報告者：清剛治

目次

1. 事前調査の概要	3
1.1 実施全体像	3
1.2 事前調査の工程詳細	4
2. 結果と今後	5
2.1 事前調査の結果	5
2.2 今後の推進すべき事案	5
3. 各訪問先の状況報告	6
3.1 バンコック・コマツ訪問	6
3.2 ハチバントレーディングタイランド訪問	10
3.3 盤谷日本人商工会議所（JCC）訪問	12
3.4 タイ国元留学生協会訪問 [概略のみ]	14
3.5 在留邦人関係者との意見交換会 [概略のみ]	15
4. 参考データ(石川県内のタイ人：学生・住民)	16

1. 事前調査の概要

1.1 実施全体像

1. 目的	海外インターンシップ・プログラムの平成 26 年度試行実施に向け、候補地であるタイ、シンガポール、中国において、実現可能なプログラムについて、日本人商工会議所等の関係者の方々との意見交換を行う。																					
2. 対象国	タイ、シンガポール、中国																					
3. 時期	平成 25 年 6 月 10 日（月）～13 日（木） タイ *シンガポール、中国は、平成 25 年度後半の実施を検討																					
4. タイの事前調査日程	<table><tr><td>6 月 10 日（月）</td><td>午後</td><td>小松発</td></tr><tr><td>6 月 11 日（火）</td><td>早朝</td><td>バンコク着</td></tr><tr><td></td><td>午後</td><td>バンコクコマツ（BKC）訪問，等</td></tr><tr><td>6 月 12 日（水）</td><td>午前</td><td>ハチバントレーディングタイランド 訪問， 在タイ日本大使館訪問</td></tr><tr><td></td><td>午後</td><td>盤谷日本人商工会議所訪問， タイ国元留学生協会訪問</td></tr><tr><td>6 月 13 日（木）</td><td>早朝</td><td>バンコク発</td></tr><tr><td></td><td>午後</td><td>小松着</td></tr></table>	6 月 10 日（月）	午後	小松発	6 月 11 日（火）	早朝	バンコク着		午後	バンコクコマツ（BKC）訪問，等	6 月 12 日（水）	午前	ハチバントレーディングタイランド 訪問， 在タイ日本大使館訪問		午後	盤谷日本人商工会議所訪問， タイ国元留学生協会訪問	6 月 13 日（木）	早朝	バンコク発		午後	小松着
6 月 10 日（月）	午後	小松発																				
6 月 11 日（火）	早朝	バンコク着																				
	午後	バンコクコマツ（BKC）訪問，等																				
6 月 12 日（水）	午前	ハチバントレーディングタイランド 訪問， 在タイ日本大使館訪問																				
	午後	盤谷日本人商工会議所訪問， タイ国元留学生協会訪問																				
6 月 13 日（木）	早朝	バンコク発																				
	午後	小松着																				
5. 対応者	石丸成人 石川県企画振興部次長（元在タイ日本国大使館一等書記官） 清 剛治 金沢大学 大学教育開発・支援センター特任助教																					

1.2 事前調査の行程詳細

日 時		行 程
6月		
10日	15:30	金沢市内→小松空港
	16:55	小松空港→羽田空港【ANA758-18:10着】
11日	0:30	羽田空港→スワンナプーム空港【ANA173-5:20着】
	5:45	スワンナプーム空港→宿舎
11日	14:00-16:00	<u>バンコクコマツ（BKC）訪問</u>
	18:30-21:00	<u>在留邦人関係者との意見交換会</u>
12日	10:00-11:30	<u>ハチバントレーディングタイランド 訪問</u>
	11:45-12:15	<u>在タイ日本国大使館 訪問</u>
	14:00-15:00	<u>盤谷日本人商工会議所 訪問</u>
	15:30-16:30	<u>タイ国元留学生協会 訪問</u>
13日	5:30	宿舎発
	8:15	スワンナプーム空港→成田空港【ANA954-16:25着】
	18:50	成田空港→小松空港【ANA3119-20:05着】
	21:00	小松空港→金沢市内

2. 結果と今後

2.1 事前調査の結果

我々は、大学間連携共同教育推進事業において「海外インターンシップ・プログラム」の開発、及び次年度試行を目指している。今回の事前調査は、タイ国現地での受入協力企業の承諾を、相互理解の下に獲得することが最大のねらいであった。

その結果、石川県にゆかりのある、コマツ（株）小松製作所、（株）ハチバンの2社より、概ね受入の承諾を得ることができ、今後、実施へ向けて詳細を詰めていくこととなった。

さらには、タイ元留学生協会でのやり取りにおいては、タイの大学生との交流プログラムの実施可能性やフィールドワーク可能性も今後検討し得ることも確認できた。これらを企業インターンシップに有機的にかからめていくことにより、特色ある海外インターンシップ・プログラムの構築への期待が高まるものであった。

また、前石川県企画推進部次長の俵氏が赴任するタイ国日本大使館を表敬し、我々の活動へのご理解を頂いた。

一方、現地日系企業の多くが加盟する盤谷日本人商工会議所においては、現時点では当方らの活動に係る諸協力は得られなかった。しかしながら今回の往訪により、大学コンソーシアム石川の取り組みに係る熱意も伝えることができ、今後の何がしかの連携展開の可能性には繋がったものと考えている。

総じて、今回の事前調査は、実質2日間の限られた行程も鑑みれば、極めて有益な結果を得ることができたと認識している。

2.2 今後の推進すべき事案

①学生選考基準の設定

どの力をどう測定していくかの基準を策定する。企業側には受け入れて良かったと思うような学生の選抜が、持続的なスキーム構築へ繋がっていくと思われる。

②インターンシップ・プログラム案の策定

今秋を目途に、プログラムのたたき台を策定し、企業側とディスカッションを開始する。募集開始時期にも留意し進める。

③渡航前ショートプログラムの開発

語学も含め、現地カルチャー等、総合的な内容のものを策定する。

3. 各訪問先の状況報告

3.1 バンコック・コマツ訪問

目的： 海外インターンシップの受入可能性を模索し、その実現を目指すべく、コマツ現地法人側・大学側の状況等について情報交換を行った。

日時： 平成 25 年 6 月 11 日（火） 14：00－16：00

往訪先： Bangkok Komatsu Co., Ltd

住所： 700/25 Moo 5 Amata Nakorn Industrial Estate, Sukhumvit Rd., Klungtumru Sub-Dt., Muang Dt., Chonburi 20000 Thailand

先方： 高橋康副会長，菱沼聖史 CFO，浦様

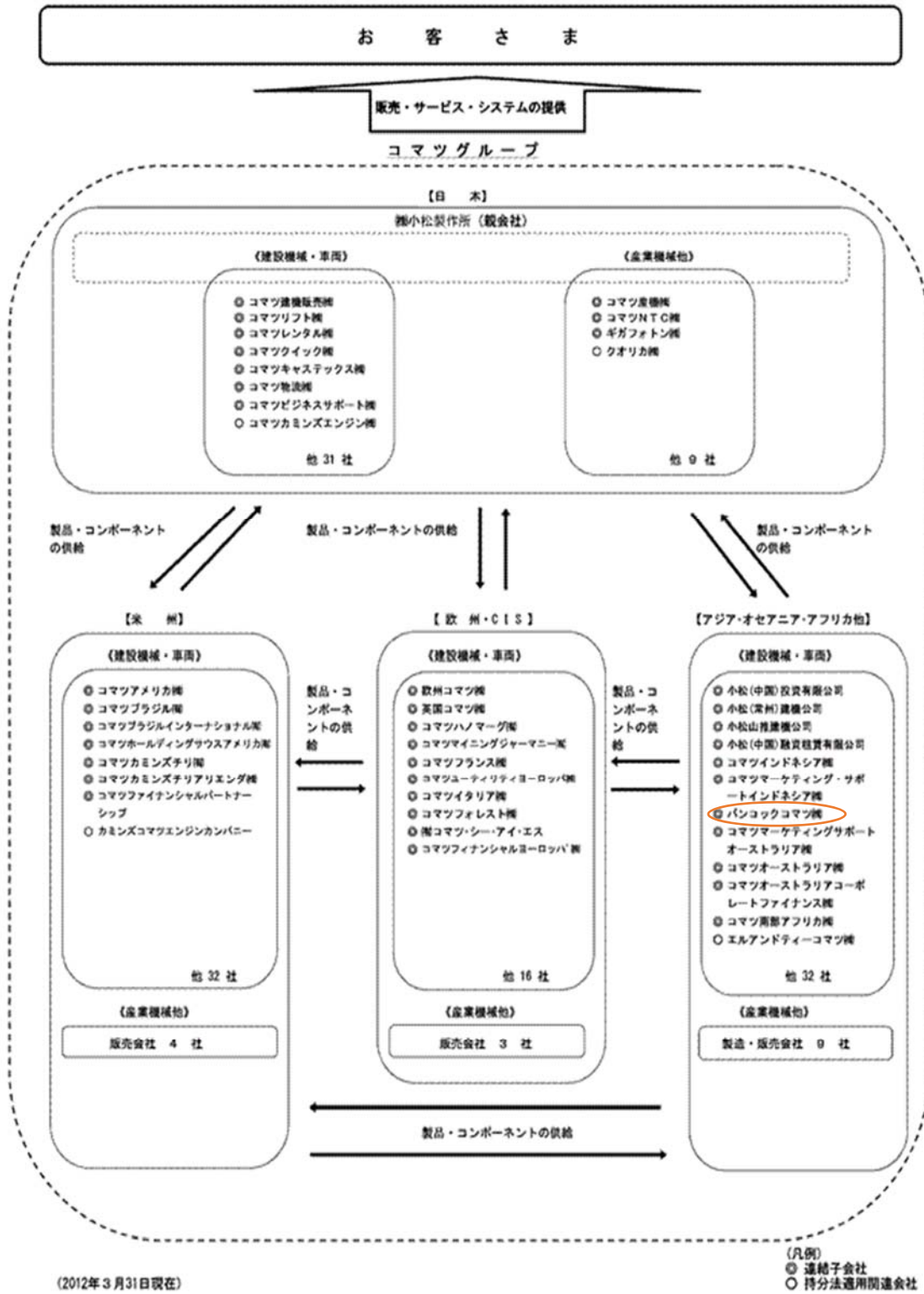
結果： インターンシップ受入は可能であり、今後コマツ研修センターも含め、次年度試行へ向け協議していくこととなった。

■バンコック・コマツ概要について

バンコック・コマツは、コマツグループとタイのコマツモーターワークスとの合弁会社として 1995 年 11 月に設立された。1996 年 10 月から PC200 という中型建機の販売を中心にスタートした。1997 年のアジア通貨危機後には、27 カ国に輸出するまでに拡張していくことに成功している。そのような需要を満たすために、2008 年 8 月 26 日に新工場を立ち上げるに至った。最初の加工工場に加え、組立工場が追加されたものである。42,460 平方メートルのエリアでの新しいプラントは、事故を回避するためにセンタ柱なしで造られ、最先端の技術と工作機械を保有している。1 年当たり 6,000 のユニットの生産力を有し、従業員は 590 名で操業している。人的資本の開発は優先順位が高く、溶接技術訓練等の諸計画は綿密に立てられ、オールコマツ・オリンピック・スキル・コンテストを開催するなど、従業員の熟練化に注力している。



■現地法人の位置づけ



■意見交換状況について（先方からの情報）：

【現地の経済状況概略】

- ・経済活動の拠点は、シンガポールから、タイ、インドネシアに移ってきている。
- ・シンガポールは以前に比べると地盤沈下の状況がみられる。
- ・大きなところでは日産もタイにシフトし、地元の北國銀行駐在員も定期的にタイへ往訪してきている。

【小松短大社会人学生受入からの経験】

- ・小松短大からは、社員学生を毎年5名程度の受入を1週間レベルで行っている。
- ・どちらかというと、経験してもらうことに主眼をおいている。
- ・研修内容は、現場を見てもらい、改善提案をしてもらうという、技術スタッフ的な内容である。
- ・研修の最後には発表プレゼンをしてもらい成果を見る。
- ・受入時は迎えにはいったが、帰りは自分で帰らせる。

【コンソーシアム石川の学生受入場合の検討】

- ・これまでは社員学生であったが、今回は学部領域も幅広く社会人経験も無い「学生」が対象となる違いが存在する。
- ・そのままタイ現地工場で研修するだけなら、栗津工場でも十分で、海外でインターンシップを張ることの意義や違いを明確にすべきであろう。観光旅行になってしまう。
- ・受け入れはどれだけでも行う。現地法人側に貢献する必要はなく心配しなくてよい。
- ・学生のためにどのようなカリキュラムができるか協働する必要がある。
- ・海外から来ている駐在も多いのでそのような人々と接触できるスキームもあってよい。駐在員は外国人を引っ張ってマネジメントする力が必要なので会ってみるだけでも経験となろう。
- ・コマツでもうつ病になる社員は多く、タフな人材は採用優先度が高い。精神力を高めることは大切であり、大学教員への要望でもある。
- ・文系の学生に対しては、調達や生産管理、総務等の業務も経験できる。
- ・期間は2週間くらいが望ましい。1月が決算準備で多忙であり、夏休みでよい。
- ・宿泊はJパークというのがあり、長期間泊まれる。この現地法人工場は工業団地にあるので、土日はバンコク市内で泊まるのも良い。
- ・人数は6人程度までなら可能である。

【現地での社員教育】

- ・定期採用はない。経験者に対する教育となる。
- ・まずガイダンスを行う。そして個の状態に合わせてトレーニングを実施する。
- ・溶接コンテスト（技能競技大会）を社内で実施、また等級をつくり検定を行っている。
- ・タイは流動性が高いため、能力主義を取り入れようとしている。
- ・そのことにより、キーマンとなる従業員は流出しないように注力している。

■コマツの参考取組状況について（訪問聞き取り以外の情報：ご承諾背景にある考え方）

人材育成：

- ・コマツには、ビジネスリーダを対象としたグローバル人材育成制度がある。研修(1)「海外現地法人（以下、現法）トップと経営層の育成」と研修(2)「日本国内のグループ会社社員を対象にグローバルで活躍できる人材の育成」の二つが存在している。
- ・研修(1)は、経営の現地化を目指すものである。現法で採用した生抜き社員を育て、現法で経営トップとなるようなビジネスリーダの育成に注力している。既に主要な現法ではナショナルトップが経営を担い、日本人駐在員がナンバー2（バンコックでは副会長職/現地人材が社長）として彼らをサポートしている。日本人駐在員はコマツ流のマネジメント・技術・技能を海外に伝えるのが主な役割であり、コマツ（日本）と現法（現地）との橋渡しをする「ブリッジ人材」になることが期待される。
- ・研修(2)は、コマツグループ（日本国内）の社員を対象にした育成とし、各職能におけるプロフェッショナルを育てることに重点を置いている。選抜研修、階層別研修、および職能別専門研修、を実施している。
- ・選抜研修として、グローバルで活躍できる経営幹部候補を育成するため、ビジネスリーダ選抜育成制度を1996年より実施している。若手部長クラスでは10名程度を短期間の海外・国内のビジネススクールに派遣する。

CSR について：

- ・「本業を通じて社会の役に立つこと」がコマツの CSR 活動であると定義した上で、グローバルに取り組むべき重点分野を策定し活動を推進している。
- ・「生活を豊かにするー社会が求める商品を提供するー」「人を育てる」「社会とともに発展する」の3つの重点領域である。
- ・「人を育てる」には“地域社会における人材育成への貢献”が明示されており、内外のステークホルダーとの双方向の対話を通じて何が重点課題かを理解しながら、CSR活動を推進し、社会からの信頼度を向上させ、持続的な成長につなげていきたい考えが存在している。

3.2 ハチバントレーディングタイランド訪問

目的： 海外インターンシップの受入可能性を模索し、その実現を目指すべく、(株)ハチバン現地法人側・大学側状況について意見交換を行った。

日時： 平成 25 年 6 月 12 (火) 10:00-11:30

往訪先： HACHIBAN Trading (Thailand) CO., LTD.

住所： Office 120 AmpleTower.11/5,Bangna-Trad Rd.,Bangkok 10260 Thailand

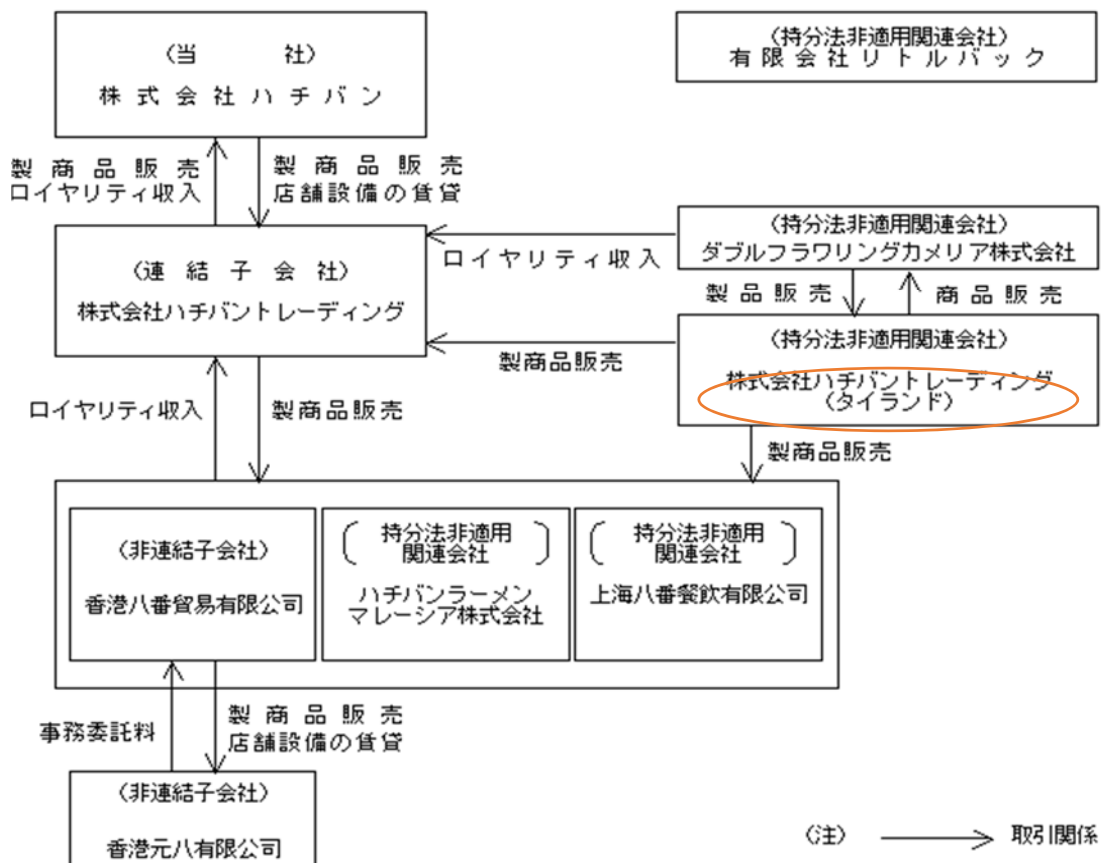
先方： 清治 洋 社長

結果： 実施方法を工夫することによりインターンシップ受入は可能であり、次年度試行へ向け協議していくこととなった。

■(株)ハチバン・トレーディング (タイランド) について

日本・海外にて飲食店・食品開発販売を展開するハチバングループのタイ法人である。日本にて培われた食のノウハウを生かし、タイにてエキス・調味料の開発、製造、販売を手掛けている。本物の味、天然の味の追求、食の安全・安心の追求、顧客ニーズを追求した商品開発 (OEM も) により、常に確かな味を安定供給することに留意している。

■現地法人の位置づけ



■意見交換状況について（先方からの情報）：

【現地法人の状況】

- ・日本人社長 1 名、現地社員 5 名の組織である。
- ・日常はタイ語がベースである。
- ・貿易実務に係る業務は英語である。
- ・社長も営業や出張等が多く、週 1， 2 日しかいない。

【グローバル人材育成に係る方向性】

- ・過日もグローバル人材育成に係り、福井大学関係者が見学に来社した。
- ・どのような教育プログラムにするかは、目的の方向性によるところが大きい。
- ・実務は日本と海外の各やり方は違うことを踏まえ、かつ社会経験のない学生対象も考慮し、プログラムの有り様を考えていく必要がある。
- ・日本人がグローバル人材になるためには、海外で仕事をしていくテクニック等を向上していく必要があり、個人的にも協力したい。
- ・タイの大学では企業研修は必修である。自分で受入先を探し、インターンシップを申し込み 3 か月程度従事する。
- ・一方で日本においては、小中学校では課外活動は必修であるが大学ではない。

【インターンシップ推進のイメージ】

- ・事務所にいても英語ができる社員の 1 名であり、社長の行動に密着して実践を学ぶというやり方も考えられる。
- ・(社長自身が) 最初に海外で仕事をしたとき、やり方の違いや、ポジションの高さにとまどった経験から、「適応能力」の必要性を強く感じた。
- ・現地では、ハチバンのブランドを守りながら適応する必要性があり、これは自分で考えて行かねばならない。
- ・コミュニケーションについては、同じ目的を共有していれば、顔を付け合せていけば理解しあえる。
- ・重要なのは、伝える力であり、解釈をどう伝えるかである。
- ・インターンシップの時期は、海外出張も多いため早めに調整していければありがたい（夏休み実施であれば春先には）。



3.3 盤谷日本人商工会議所（JCC）訪問

目的： 海外インターンシップの受入可能性のある日系企業に係る情報収集、及び当方の取り組みに係る協力の打診。

日時： 平成 25 年 6 月 12（火） 14：00－15：30

往訪先： Japanese Chamber of Commerce, Bangkok

住所： 15th floor Amarin Tower, 500 Ploenchit Rd,

先方： 石井信行事務局長

結果： 商工会議所の所属企業のメリットにつながるスキームであれば協力はするが、現状はそうでないため、すべての大学からの要請は断っている状況である。

■盤谷日本人商工会議所（JCC）について：

以下の 4 点の目的で業務を行っている。

1. 日本・タイ両国間の商工業及び経済全般の発展に寄与すること。
2. 商工会議所会員相互の交流、親睦等を促進すること。
3. 商工会議所会員の商工業活動発展のための「相談」「援助」及び「便宜」を供与すること。
4. 仏暦 2509 年タイ商工会議所法の規定に基づき、会議所として実施するその他の業務を遂行すること。

盤谷日本人商工会議所は、1954 年 9 月 27 日に会員数 30 社をもって設立された。会員数は、日本企業の海外進出・工場移転に伴い着実に増加した。特に 1985 年のプラザ合意以降の円高による海外投資ブーム、世界経済のボーダレス化、グローバル化の加速により急増している。現在 1,500 弱の会員企業であり、これは在外日本人商工会議所としては世界最大規模である。

年 業種別会員数	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	シェア (%)
商業・貿易	187	186	195	201	208	213	216	221	227	241	17.6%
製造業	605	629	642	647	652	658	670	674	676	663	48.4%
現地製造	580	600	617	623	629	640	649	653	654	640	46.7%
金属	80	85	84	86	89	88	93	95	98	94	6.9%
自動車及び関連	108	114	165	169	173	178	184	192	194	195	14.2%
電気・機械	161	168	171	168	163	173	168	169	164	171	12.5%
繊維	48	48	38	41	49	47	41	47	46	47	3.4%
化学・薬業	92	92	83	82	80	79	80	84	85	82	6.0%
食品	33	36	39	40	42	42	40	40	38	39	2.8%
その他	58	57	37	37	33	33	40	26	29	12	0.9%
駐在員事務所	25	29	25	24	23	22	24	21	22	23	1.7%
土木・建設	69	70	73	71	72	72	69	69	67	71	5.2%
金融・保険証券	41	42	42	45	48	48	47	49	45	49	3.6%
航空・運輸	73	73	69	67	68	68	71	72	77	76	5.5%
旅行代理店	16	16	17	20	20	18	18	16	15	14	1.0%
ホテル・レストラン	43	43	53	58	55	57	54	56	53	51	3.7%
広告・出版・書籍	21	25	25	25	26	24	24	25	23	26	1.9%
百貨店・小売・コンサ ルト	21	21	18	16	19	19	27	27	35	43	3.1%
政府関係機関	9	10	9	8	9	9	9	8	8	8	0.6%
団体	3	3	4	4	4	4	4	4	3	2	0.1%
その他	82	89	87	90	97	102	94	96	98	127	9.3%
合 計	1,170	1,207	1,234	1,252	1,278	1,292	1,303	1,317	1,327	1,371	100%

■意見交換状況について（先方からの情報）：

【基本的なスタンス】

- ・海外インターンシップは大学側の PR としては良いが、企業側のメリットも考えねばならない。
- ・日本ではインターンシップ参加者の青田買いも可能であるが、海外の場合では就職に繋がらず、怪我等のリスクもあり、基本的には各企業は受けていない現状である。
- ・本社経由のインターンシップ受け入れで就職の可能性がある場合のスキームはあり得る。
- ・現実には、日本語/タイ語/英語のできるタイ人新卒を月給 20,000 バーツ（60,000 円）で雇ったほうが良いと考える。
- ・数週間では雰囲気だけ味わう程度なので、本気で 1 年休学して来るくらいでないと企業も本気に思わない。ある大学の 2 名の学生は休学してインターンシップに来ている。
- ・（上記のそのようなケースは）ワンマンオーナーで社会貢献意識が高い企業で可能性はある。多くはサラリーマン社長で自身の責任問題につながるため難しい。

【企業に対して JCC 経由で情報を流してもらおう可能性について】

- ・個別の大学情報を会員企業へ流すことは難しい。
- ・大使館経由の話でも他大学すべて断っている現況から出来ない。
- ・現実的に大学のスケジュールは同じであり、全体に流し、何千人もアプライされても対応できず企業もパンクしてしまう。
- ・現地への進出法人の社会貢献の意味はタイ社会に対する貢献である。
- ・ただ、現地法人側のニーズが高ければ JCC として動ける。

3.4 タイ国元留学生協会訪問

目的： タイ学生に係る情報収集や、連携の模索を試みる

日時： 平成25年6月12（火）15：30－16：30

往訪先： Old Japan Students' Association, Thailand

住所： 1/7 Sibunruang 2 Building, 2 Fl., Convent Rd., Silom

結果： 例えば、タイ人学生との交流プログラム等、諸企画を共同で開発し、タイにおける海外インターンシップの学生効用度を高める要素を考えていく。

■タイ国元留学生協会について：

かつて日本で勉強した元留学生がお互いの連携を強め、人脈を形成し、母国社会での留学生（元留学生）の地位向上を図ることなどを目的に結成された同窓会組織である。

①帰国留学生のネットワークの形成、②これから日本へ留学する人や留学希望者に対する支援、③日本紹介のための活動、等を行っている。日本語学校はバンコク市内で3校存在する。戻ってきた留学生は3,000人を擁する。

■意見交換状況について（先方からの情報）：

【日本語学校の状況】

- ・年代は4～60歳まで様々だが、高校生と大学生が多い。社会人も5年以内の若い世代である。
- ・常勤講師は4名（日本人は2名）、非常勤講師は60名（日本人は10名）。3校併せて1,000人の学生が在籍し、日本企業への就職や留学を目指している。
- ・日本人と触れ合う機会を望んでおり、東京以外の地域にも目を向けさせたい。

【日本の大学との関わり】

- ・過去に、青森の大学から交流に係る問い合わせがあったことはあるが具体的にはない。
- ・本協会は、チェンマイ等の地方にも支部があり、フィールドワークも企画できよう。また、バンコク市内でも都市交通に係る調査等、企画はいろいろ立てられる。
- ・タイの大学は、始業がこれまでは6月（3～5月が長期休み）だったが、順次8月（5～6月が長期休み）始業に移行してきており、現在は大学ごとに違う移行期である。
- ・日本の夏休み時期でインターンシップを張るなら、土日ならタイの学生は関われる。
- ・タイの大学は勉学が大変厳しい。

【滞在環境】

- ・サービスアパートというものがあり、長期滞在には良い。一泊1,500バーツくらいで2人で泊まれるので金額は割れる。
- ・ゲストハウスのようなものもあり、事前セミナーをやって送り出すことも可能である。

3.5 在留邦人関係者との意見交換会 [概略のみ]

目的： 意見交換

日時： 平成 25 年 6 月 11 (水) 18:30 - 21:00

往訪先： バンコク市内

先方： 泰日工業大学関係者、企業関係者、等

3.6 在タイ日本国大使館訪問 [概略のみ]

目的： 表敬

日時： 平成 25 年 6 月 12 (水) 11:45—12:15

往訪先： 日本国大使館

住所： 177 Witthayu Road, Lumpini, Pathum Wan, Bangkok 10330

先方： 俵 幸嗣 一等書記官



4. 参考データ(石川県内のタイ人：学生・住民)

平成24年度外国人留学生数について

1 高等教育機関別 (単位：人)

大学等名	H24	H23	増減
1 北陸大学	641	700	▲59
2 金沢大学	486	483	3
3 北陸先端科学技術大学院大学	262	252	10
4 金沢星稜大学	56	100	▲44
5 アリス学園	40	41	▲1
6 金城大学	21	24	▲3
7 日本航空専門学校石川	11	13	▲2
8 金城大学短期大学部	10	6	4
9 その他	35	29	6
合計	1,562	1,648	▲86

(平成24年7月1日現在/石川県国際交流課調べ)

2 国籍・地域別 (単位：人)

国名	H24	H23	増減
1 中国	1,066	1,177	▲111
2 ベトナム	136	130	6
3 インドネシア	58	35	23
4 韓国	46	48	▲2
5 タイ	43	54	▲11
6 マレーシア	29	23	6
7 インド	25	25	0
7 バングラデシュ	25	22	3
9 モンゴル	14	13	1
10 ロシア	11	12	▲1
11 その他	109	109	0
合計	1,562	1,648	▲86

(平成24年7月1日現在/石川県国際交流課調べ)

石川県国際交流課

市町別・国籍別外国人住民数(平成24年12月末現在)

市町名	アジア		オセアニア	アフリカ	中南米	EU	その他	合計	No.1																			
	タイ	その他							中国	インドネシア	ベトナム	韓国	台湾	香港	マカオ	米国	カナダ	メキシコ	ブラジル	コロンビア	ドイツ	フランス	英国	イタリア	スペイン	その他		
総数	10,601	8,923	4	19	51	2	7	5,110	69	355	18	1	1	1,755	4	2	53	29	40	26	603	4	6	189	3	572	2	
金沢市	4,606	4,044	1	7	40	1	3	2,410	27	133	14	1	1	905	1	2	36	15	37	5	211	4	1	59	2	128	1	
七尾市	456	398	0	0	0	0	0	184	0	0	0	0	0	85	1	0	0	0	0	0	56	0	1	2	0	69	0	
小松市	1,322	709	0	1	0	0	0	378	11	11	1	0	0	158	0	0	0	0	1	49	0	0	20	0	79	0		
輪島市	185	167						53						18					13		32		1	42		8		
珠洲市	99	93						60	25					4					1		2					1		
加賀市	650	583	0	1	0	0	0	303	0	19	0	0	0	173	0	0	0	0	1	71	0	0	11	0	4	4	0	
羽咋市	89	79		1				37	1					7							15			7		11		
かほく市	252	224		3				143	1	3			1	23	0				0	0	0	21	0	0	3	0	26	0
白山市	729	654	1					464		18				94					1	9	27		3	3		34		
能登町	793	709		4	11		1	331	17	18				101				9		1	8	12		29		167		
野々市市	348	315	2	2		1	2	164	7	2				106				3		2	11			8		4	1	
川北町	33	30						26								1										3		
津幡町	189	152						86			1			12	1		4	1			38			2	1	6		
内灘町	173	128						74	5	2				30				1			10			1		5		
志賀町	109	106						83		5											18							
宝達志水町	134	130						101						4							20						5	
中能登町	189	186					1	160						16							4			1		4		
穴水町	43	21						9						6							5			1				
能登町	202	193						44						119							1						18	